

各関係機関・団体の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成19年度発生予察技術情報第11号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので送付します。

平成19年度技術情報第11号

果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）の誘殺数が9月に入ってから増加し、一部の地域で果樹園への飛来が確認された。本年は、果樹カメムシ類の好適な餌であるヒノキ樹の球果量が少ないことから、今後、餌不足により山林から局地的に果樹園へ飛来する恐れがあるので、注意が必要である。

1 対象作物 カンキツ、ナシ、カキ

2 情報の根拠

- （1）県内5カ所の予察灯への誘殺数は、薩摩川内市東郷町、出水市、垂水市で9月中旬以降、急増している。特に、出水市では9月第4半旬に600頭（2種合計）以上と本年最多の誘殺が認められた（図1、表1）。
- （2）出水市や薩摩川内市では、9月上旬から山林に近いカンキツ、ナシ園でカメムシ類の飛来が認められ、一部の園では果実へ被害が認められた。
- （3）ヒノキ球果上での寄生虫数は、9月上旬と中旬の調査ではそれぞれ8.6頭、6.9頭/地点（近年で最も多かった平成17年：11.6頭、8.8頭/地点）と多くなっている（表2、図2）。
- （4）ヒノキ球果の平均口針鞘（カメムシ類の吸汁痕）数は、8月下旬の5.9本/果に対し、9月上旬では12.0本/果と増加している（表3）。
- （5）本年は、ヒノキの球果量が少ないため、今後、新成虫がヒノキ樹から離脱し、餌を求めて局地的に果樹園へ飛来する可能性が高い。

3 防除上注意すべき事項

- （1）カメムシ類の発生は地域間差、ほ場間差があるので、朝夕に園内外を見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。山際部の極早生温州では特に注意する。
- （2）防除に当たっては、一回目は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤を選択する（有機リン剤は残効が短い）。合成ピレスロイド系薬剤は、ミカンハダニの発生を助長するので連用を避け、ネオニコチノイド系薬剤や有機リン剤と交互に使用する。
- （3）防除にあたっては、防除薬剤の使用回数や使用時期を厳守して農薬の安全使用に努め、収穫期の近い樹種では、農薬の選定に注意する。
- （4）忌避灯（黄色蛍光灯：波長500～600nm）が設置してある園地では夜間に集団点灯を行う。また、果実の袋掛けやネット被覆など耕種的防除により被害の軽減を図る。
- （5）夜温が下がる（20℃くらい）とカメムシ類の活動時間帯は夜間よりも昼間が中心となり、最低気温が14℃以下になると移動は少なくなる。

(参考資料)

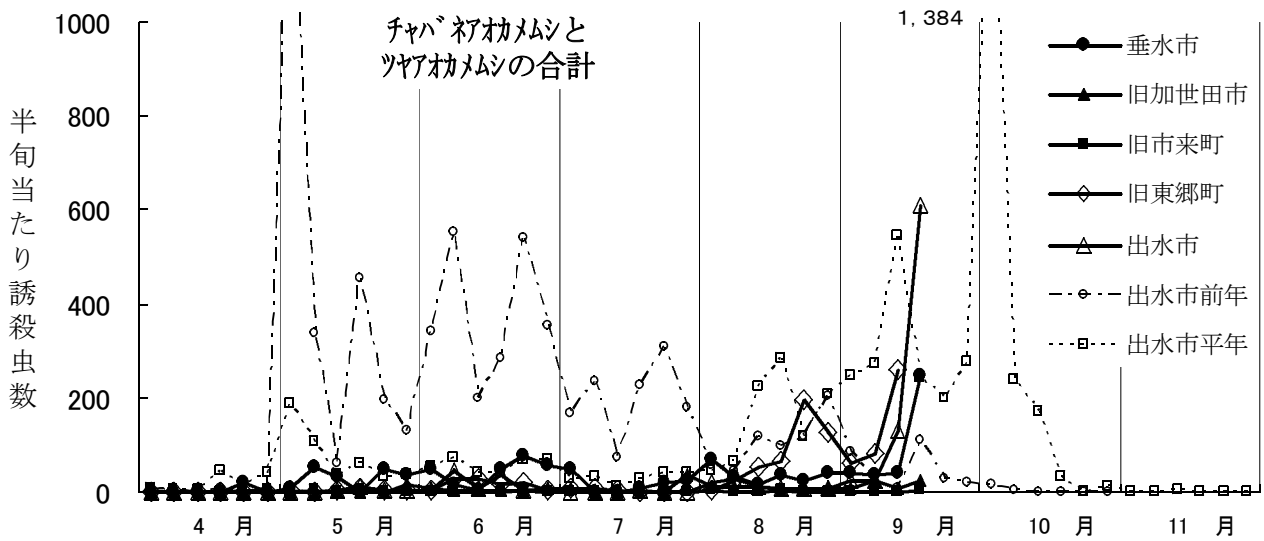


図1 予察灯におけるカメムシ類の誘殺状況 (平成19年)

表1 予察灯におけるカメムシ類の誘殺状況 (7～9月)

ツヤアカメムシ

半旬	垂水市		旧加世田市		旧市来町		旧東郷町		出水市		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
8月	1	50	23	10	46	2	59	0	35	17	24
	2	16	13	12	66	1	202	4	44	24	39
	3	10	12	8	70	0	132	22	43	10	131
	4	15	16	8	41	0	109	28	30	6	127
	5	4	22	5	34	1	56	18	26	5	33
	6	0	69	7	40	0	69	8	66	5	72
9月	1	11	93	6	53	-	91	5	66	11	80
	2	6	215	10	62	0	126	9	87	18	92
	3	25	590	5	70	1	82	15	83	110	275
	4	199	430	17	48	2	52	102	37	464	133

チャバネアカメムシ

半旬	垂水市		旧加世田市		旧市来町		旧東郷町		出水市		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
8月	1	20	97	2	32	1	80	0	74	2	21
	2	15	26	0	37	0	101	0	81	6	26
	3	6	21	5	40	2	250	2	103	3	93
	4	20	30	0	64	3	319	23	168	3	156
	5	20	51	1	54	1	138	46	131	2	86
	6	42	81	3	48	0	251	187	112	4	137
9月	1	30	39	4	43	-	149	120	113	13	168
	2	29	56	13	27	0	596	53	172	8	180
	3	14	71	2	76	0	422	62	127	21	268
	4	48	57	7	30	1	153	157	73	144	113

表2 ヒノキ球果上のカメムシ類（チャバネカメムシ，ツヤカメムシ）寄生虫数の年次別推移及びヒノキ球果量

年	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬	9月中・下旬	ヒノキ球果量
2000	0.1	2.5	1.2	0	0	0	極少
2001	0	0.1	0.3	2.2	—	5.9	やや多
2002	3.4	4.9	6.2	10.8	3.2	3.8	多
2003	0.6	1.0	1.6	2.5	1.5	1.2	やや少
2004	1.4	3.9	5.9	8.7	4.7	0.8	やや多
2005	1.0	4.0	7.4	6.6	11.6	8.8	多
2006	2.9	9.2	5.7	1.2	0.8	0	中
2007	0.9	3.1	6.9	7.7	8.6	6.9	やや少

注) 数字はカメムシ類の1地点（5枝）当たりの平均頭数である。

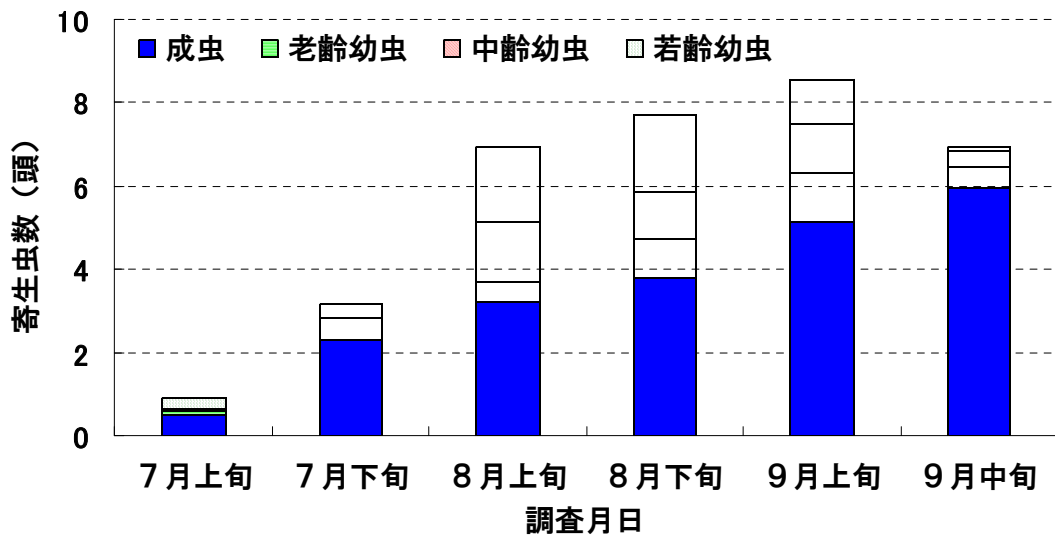


図2 ヒノキ球果上のカメムシ類（チャバネカメムシ，ツヤカメムシ）寄生虫数

表3 ヒノキ球果1個当たりの口針鞘数（1地点当たり20果調査）

調査地点	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬
いちき串木野市湊町	0.1	0.4	2.7	3.6	13.4
いちき串木野市生福	0.0	0.8	4.3	7.5	15.0
薩摩川内市東郷町石堂	0.0	0.2	0.3	1.0	5.9
さつま町甫立	0.0	0.2	0.7	2.0	14.3
阿久根市桐野下	0.1	0.4	3.8	4.1	11.5
出水市高尾野町江内	0.0	0.3	3.3	4.9	9.2
出水市東光山	0.0	0.3	5.4	12.8	14.6
出水市大平	0.0	0.4	0.6	8.4	19.3
鹿児島市中山	0.1	1.6	3.6	11.0	13.2
霧島市溝辺町竹子	0.0	0.4	0.6	0.5	7.0
鹿屋市高須	0.0	0.2	1.1	5.9	5.7
垂水市上場	0.0	0.5	8.3	10.8	17.3
南さつま市津貫	0.0	0.2	2.0	1.8	7.0
南さつま市金峰町白川	0.4	0.9	8.1	13.4	22.3
平均	0.1	0.4	3.0	5.9	12.0

注) 口針鞘数が25本/果を越えると成虫がヒノキ樹から離脱するとされている。